



きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

絶滅危惧種のシナイモツゴって？

ニュース



こども記者が取材



㊦シナイモツゴの生態や保護の必要性について取材するこども記者
㊧シナイモツゴ



絶滅危惧種の淡水魚シナイモツゴって知ってる？ かつて宮城県鹿島台（現大崎市）と松島、大郷の3町に広がっていた品井沼に生息し、現在は鹿島台地区のため池などに生息しているんだ。大

（8面に関連記事）
こども記者は石川耀一朗さん（10）と川口陽さん（11）、今野乃愛さん（11）、佐々木柚奈さん（11）、佐藤璃来さん（11）、高崎あかりさん（10）、武山碧那

崎市の天然記念物にもなっています。鹿島台小5年のこども記者8人は、保護活動が続ける地元のNPO法人「シナイモツゴ郷の会」を取材し、自分たちにできることを考えました。

地道に保護 稚魚放流も

シナイモツゴは全長8センチほどで、コイに似ています。1916年に品井沼で採取され、31年に新種登録されました。「ここには今、10万匹以上生息しています」。「シナイモツゴ郷の会」理事長の高橋清孝さん（73）が、保護活動をするため池に案内してくれました。

地元住民は品井沼の魚をため池に移していけず、代わりにしていたため、シナイモツゴは沼が消失した後もため池で生息していたそうです。ところが35年以降生息数は激減し、全国的にも姿が見られなくなりました。

「なぜ絶滅危惧種になったのですか」。こども記者が質問すると「元々のすみかだった沼が少なくなかったこと、モツゴや外来種のブラックバスが放流され食べられてしまったことが大きな理由です」と高橋さん。



さん（10）、門間晴大さん（10）です。

「なぜ絶滅危惧種になったのですか」。こども記者が質問すると「元々のすみかだった沼が少なくなかったこと、モツゴや外来種のブラックバスが放流され食べられてしまったことが大きな理由です」と高橋さん。

保護活動の一つに、シナイモツゴの稚魚放流もあります。「君たち小学生に卵から育ててもらい、シナイモツゴを大切に思う子どもを増やしたい。保護活動の次の担い手になってもらえたらうれしい」。高橋さんは、こども記者に期待を寄せました。

シナイモツゴを守るため2002年に「郷の会」を設立し、ブラックバスと卵を食べるアメリカザリガニの駆除を始めました。地道に活動が続け、シナイモツゴだけでなく、同じく絶滅危惧種のゼニタナゴやニホンウナギなどの在来種が増え、ため池には豊かな生態系が戻ってきました。

再発見されたのは93年でした。見つけた高橋さんは「自信がなかったけれど、本と記録からシナイモツゴじゃないかと思っただけ。ため池を60ほど調査し、3カ所で確認できました」と振り返ります。



この日 何の日

◇18日（水） 海外移住の日

1908年のこの日、最初のブラジル移民船「笠戸丸」がサントス港に到着したことにちなみ、総理府（現内閣府）が66年に制定しました。ブラジルでは「日本人移民の日」とされています。

きょうの紙面

- 2面 やさしいにほんごニュース
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 投稿特集 父の日
- 7面 投稿特集
- 8面 こども記者